

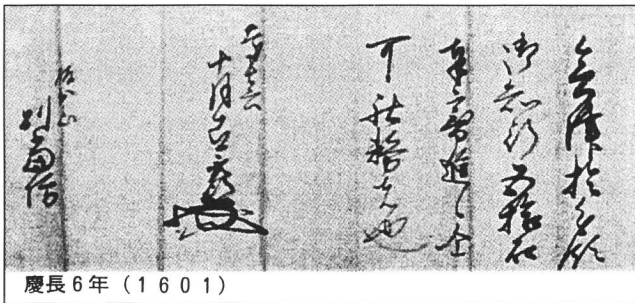
年を経て枝葉繁茂しました。後年、心ない百姓の女が不浄衣をその枝にかけたため、松は忽ちにして枯れてしまいました。その後には再び一根三茎の五葉松を生じたということです。其の後、何れの頃にか、水患を避け、今の地に移りました。天正十七年の兵火に罹って寺運はしだいにおとろえましたが、文禄年中住職十三世有明の時、会津の領主蒲生氏郷の命を受けて飯豊山神社を復興、以後蓮華寺は飯豊山の別当となりました。」と記してある。その後も蓮華寺は上杉時代を除いて幕末まで別当を勤めた。なお現在地に再建された蓮華寺は、境内千三百六十二歩・客殿十一間に八間南向き、本尊虚空蔵・庫裡、客殿の北にあり、十間に四間という規模であることが記録に残っている。明治の始めに神仏分離令によって廃寺となり、寺の財産は処分された。その後建物の一部は戸長役場として使われたり、学制が発布された翌年の明治六年（一八七三）には、この建物に開明小学校が開設された。明治十七年（一八八四）八月三十日の夜本堂と庫裡が焼失した。現在残っているものは山門のほか次のとおりである。

- 1 須彌壇すみだん 本村宝寿院にある。村文化財指定。
 - 2 不動明王像 本村宝寿院にある。
 - 3 大般若経六百巻 弘化元年（一八四四）会津若松弥勒寺三十世宗蓮が蓮華寺に寄進したもので、本村宝寿院にある。
 - 4 格天井及び杉戸 若松武家屋敷にある。
- 六 飯豊山に飯豊権現の杜もりを草創

元弘三年（一三三三）に、会津郡下荒井村蓮華寺の僧祖元は、出羽国長江庄円満寺の僧行尊と二名で飯豊山に登り、五社権現の祠を建て一ノ戸村に鳥居を立てた。それ以来、祖元は同山の別当先達となる。また同年下荒井村に飯豊権現を創建した。

文禄元年（一五九一）蒲生氏郷は、飯豊権現（神社）の荒廃を嘆かれ、

時の蓮華寺十三世住持有明に山道の開拓と祭典の復興を命じた。有明は五年の歳月をかけ、文禄四年（一五九五）八月登山して祭典を行った。氏郷死後、その子秀行は有明の功績を讃えて一ノ戸村葉師寺の別当をも兼ねさせた。そして寺に知行五十石を寄進した。その後も上杉景勝の在封を除いて蓮華寺は別当となり、各領主より五十石の寄進がつづけられた。左記は知行書の一部である。



会津分領において
御知行五十石
寄進奉り候まつたく
社務あるべきものなり

慶長六
十月十八日 秀行（花押）

飯出山
別当坊